

「第1回ワークキャンプ in 能登」 ～我ら中山間地域農援隊～

1 趣旨

「里海・里山の能登」の自然・風土・文化・そこに生きる人々とのふれあいを通して、農作業を行い、労働の厳しさや喜びを自らの心と身体で感じると共に、地域の課題やニーズと向き合い、地域に貢献できる青年を育成する。また、共同生活を送りながら、自分自身や他者と向き合い、一人ひとりの役割や存在感を自覚し、自己肯定感を高め、社会的自立を促進する。

2 ねらい

- ・農作業等の労働を行うことで、「地域に貢献」する。
- ・「共同生活」を通して、人と人とのつながりの大切さに気づくと共に自分の成長・自分の将来について考える。
- ・地域の人や豊かな自然との関わりの中で、「生きた体験（ホンモノ）」と出会い、様々な視点や生き方を学ぶ。

3 日程

- (1) 期 日 平成23年11月11日（金）～13日（日）【2泊3日】
- (2) 会 場 国立能登青少年交流の家・西村農園（大根畑）
- (3) 参加者 大学生3名・社会人2名 計5名
(応募者数20名程度・申込者数7名)
- (4) 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立能登青少年交流の家
- (5) 後 援 富山・石川・福井各県教育委員会

	午前	午後	夜
11月11日 （金）		【準備ワーク】 ・荷物の運び込み ・生活環境の準備 等	【ミーティング】 今の気持ち 自己紹介 ねらいの共有
11月12日 （土）	【朝食作り】 【だいこんワーク】 ・西村農園の話 ・大根を抜く・葉っぱを切る・ 運ぶ・洗うなどの作業	【だいこんワーク】 【夕食作り】 大根を使った料理	【ミーティング】 学びのシート記入 （ふりかえり）
11月13日 （日）	【朝食作り】 【だいこんワーク】	【片付けワーク】 【ミーティング】 全体のふりかえり	

4 成果と課題

土の香り、土の重み、水の冷たさ、自然の恵みを身体いっぱい感じながら農作業を行い、農家とふれあい、仲間とふれあい、「今の自分」や「自分の将来（これから）」、「働くこと」などについて考え、語り合い、仲間と寝食を共にした。

そして、活動（ワーク）の最後に、農家の協力により、収穫した大根の一部を福島県にある国立磐梯青少年交流の

家へ送り、石川から福島へ若者の熱い思いとエールを届けた。大根は、国立磐梯青少年交流の家で実施される親子事業等で「石川だいこん」として振舞われる。



石川から福島へ「思い」を届けた

(1) 成果

《参加者のアンケート・ふりかえりのコメントより》

- ・ 自然に触れ合う爽快感を味わい、とても新鮮な気持ちで働くことができた。
- ・ 農作業の辛さを実感したと共に、農家の方と一緒に貴重な体験ができた。
- ・ 農家の大変さや働くことの大変さを身を持って体験することができた。
- ・ みんなと「協力して作業する」ことの充実感を味わうことができた。
- ・ なんとなく自分のやってみたいことを前向きに考えられるようになった。

若者が「本気で働くこと」を通して、農家の生き様に触れ、苦労や喜びを身を持って体験することができたと共に、微力ながらも高齢化が進む農家に貢献し、若者の存在や若者の力が農家の人々の元気と笑顔につながった。また、普段関わることがない「農家」や普段行うことのない「農作業」との出会いから、新たな視点や感覚を身に着けることができた。そして、仲間と協同作業、共同生活をする中で、お互いの存在や役割を認め、刺激を受け合い、「自分」や「仲間」について考える、良いきっかけとなった。

(2) 課題

- ・ 参加対象となる高校生・大学生・社会人の一般的な動向や行事等のリサーチを行い、参加しやすい日程を検討すると共に、参加者確保に向けた広報の工夫。
- ・ 地域との連携を強化し、活動（ワーク）内容、受け入れ先の拡充を図る。
- ・ ワークキャンプの核となるリーダーの育成。



農家の指導を受けながら「だいこんワーク」



仲間と共に熱い汗を流した3日間